

留学のおもいで



宮本 恵

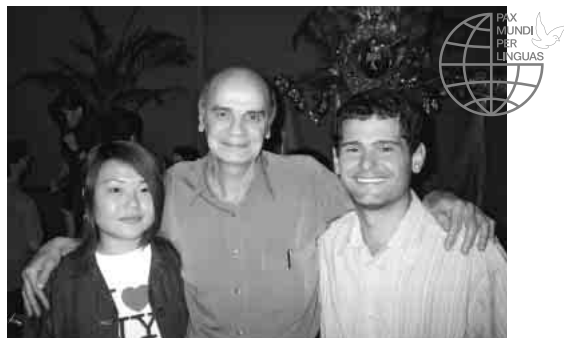
私は去年一年間、ブラジルのサンパウロ大学へ留学していました。今年で創立450周年を迎えたサンパウロは巨大な商業都市で、また日系移民の町としても知られています。サンパウロ大学は中心部から車で西へ30分ほどのButanta（先住民の言語で‘固い、頑丈な土地’を意味する）という地区にあります。

サンパウロ大学はラテンアメリカで最大の規模をもつ総合大学で、私は文学部、地理学部、芸術コミュニケーション科の授業を受講していました。敷地面積も広く、学部ごとに図書館が設けられ、図書館大好き人間の私は学内のほとんどの図書館に足を運びました。授業の関係もあり、よく利用していたのは文学部・哲学部・社会科学部の合同図書館です。この図書館は大学内で最も新しく、3階建てで様々な分野の本が置いてあります。全てのフロアにインターネット兼検索用のパソコンが備えられており、また自習用の机も各階にあります。1階には雑誌、新聞や論文などが置いてあり、コピーコーナーもあります。新聞閲覧用にソファが置かれており、お昼の2時くらいになると必ず誰かがお昼寝しています。2階、3階は文学、歴史、哲学、社会学などの多くの分野の本が揃っており、約15~20ヶ国の言語によって分類されています。



授業以外の時間をほとんど図書館で過ごしていた私は、図書館で働く職員さんや学生、また警備員さんにまで顔を覚えてもらい仲良くなることができました。そんなこ

ともあり、本を探しているときはいつも誰かが一緒になって探してくれたり、閉館時間になってもまだ勉強が終わっていなかったときは、15分~20分程閉館時間を遅らせてくれたときもありました。館内はとても静かで、人によっては「あんな息もできないようなところで、勉強できない。」と言う人もいました。また、ブラジルはストライキが頻繁に起こる国なので、大学がストに入ったときは図書館も閉まることがあり、勉強する場を奪われたときも何度かありました。



Drauzio Varella 医師（写真中央の人物）

そのようなときは、入っていたコーラス部の友達とアカペラで歌の練習をしたり、古本屋へ行き大量の本を買ったりしていたので、家に帰って勉強することは少なかったように思えます。また、ポルトガル語の勉強のために、映画館へよく行きました。ブラジル（サンパウロ）の映画館は学割がきくところでは、一人6レアル（≒320円）なので安く観れて、多くのことを学ぶことができるので、一石二鳥です。しかし、世話好きのブラジル人はよく映画の最中、ずっと隣で解説をしていたので、そのせいで集中できなかった時もありました。

留学の目的は各個人で異なりますが、勉強だけでなくその土地の「文化」を現地の人々と触れ合い、知っていくことも大事なのではないでしょうか。そのためには、まず多くの友達を作り、人脈を広げて行ってほしいと思います。後悔のない自ら納得のいく留学ができることを、心から願っています。

みやもと めぐみ

（ブラジルポルトガル語学科 4年次生）